

OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students



プロフィール (Profile)

氏名 (Name) 垣花 優希
所属 (School) 理学系研究科
学年 (Grade) 2 年

留学先 (Name of overseas institution)
National Institutes and Health
留学期間 (study abroad period)
2017/11/28 - 2017/12/4

記入日 (Date) 2017/12/14

留学レポート Study Abroad Report

2017/11/29-2017/12/2 にアメリカのボルチモア (メリーランド州) で開催された学会 (Society for Redox Biology and Medicine 2017) に参加し発表を行った。ボルチモアは東海岸に位置している港町で、ワシントン D.C. とは非常に近い。この学会はレドックスバイオロジーと医学分野の交流を深め、またフリーラジカル、レドックスバイオロジー、抗酸化物質の研究発表が主となっている。今回は "セレンの生物学と医学" "フェロトシス" "カルシウムホメオスタシスのレドックス制御" "ミトコンドリアダイナミクス" といった幅広いテーマがあり、大変勉強になった。

私の発表については、様々な意見をもらい活発な議論を心がけていたが、英語での議論は難しく伝えたいことが伝えきれないこともあった。特にスピーキングよりもリスニング力が弱いと感じた。そのため、今後の課題としてリスニング力の強化を図っていきたいと考えている。



ボルチモアの風景

学会への参加に伴い、メリーランド州にあるアメリカ国立衛生研究所 (National Institutes and Health : NIH) を訪問した。NIH は 100 年以上の歴史ある研究所であり、153 ものノーベル賞授賞者を排出している。また、75 以上のビルを有し、国立癌研究所、国立老化研究所、国立アレルギー・感染症研究所など 20 の研究所が存在するなど非常に大きな研究所である。今回、その中でもビル 10 と呼ばれ NIH の中枢ともいえる世界最大の臨床研究病院を訪問した。病棟部分では人も多く活気があったが研究棟へと一歩足を踏み入ると静かで人通りも少なく、異なる世界のように感じた。施設内では普段自分達で調製するような緩衝液が販売されており、また非常に大きな図書館もあり、研究者がより研究に専念できる環境が整っていると感じた。



NIH の様々な研究施設 (真ん中はビル 10)

今回、指導教員である居原秀准教授が以前留学していた Joel Moss 博士のもとを訪れた。Moss 博士はグアニンヌクレオチド結合タンパク質と関連調節分子、また ADP リボース化によるタンパク質の翻訳後修飾に焦点を当て研究をしており、それらと疾患との関連やメカニズムの解明を目指している。Moss 博士の都合上、1 時間程度しか滞在することができなかったのですが、多くは話できなかったが NIH での研究や留学時代の話について聞くことができた。



Moss 博士 (左から 2 人目) との会話

今回の学会での発表、NIH の訪問は英語での議論の難しさを知り、世界でトップクラスの研究所の環境に触れることができたので非常に有意義なものであった。この経験をもとにより研究に専念していきたい。